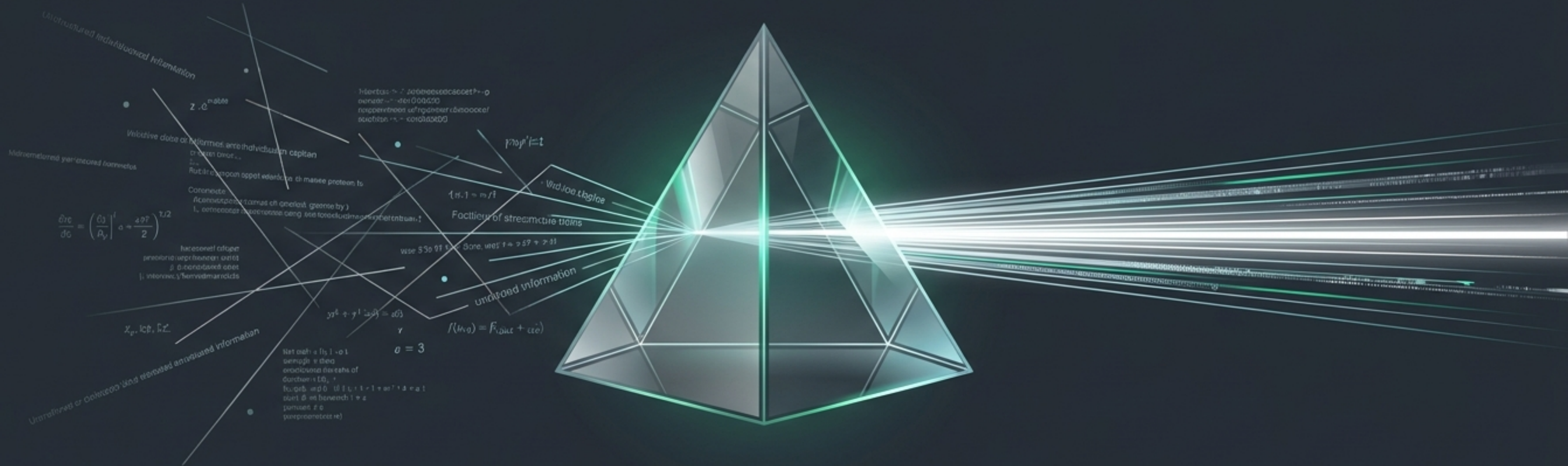
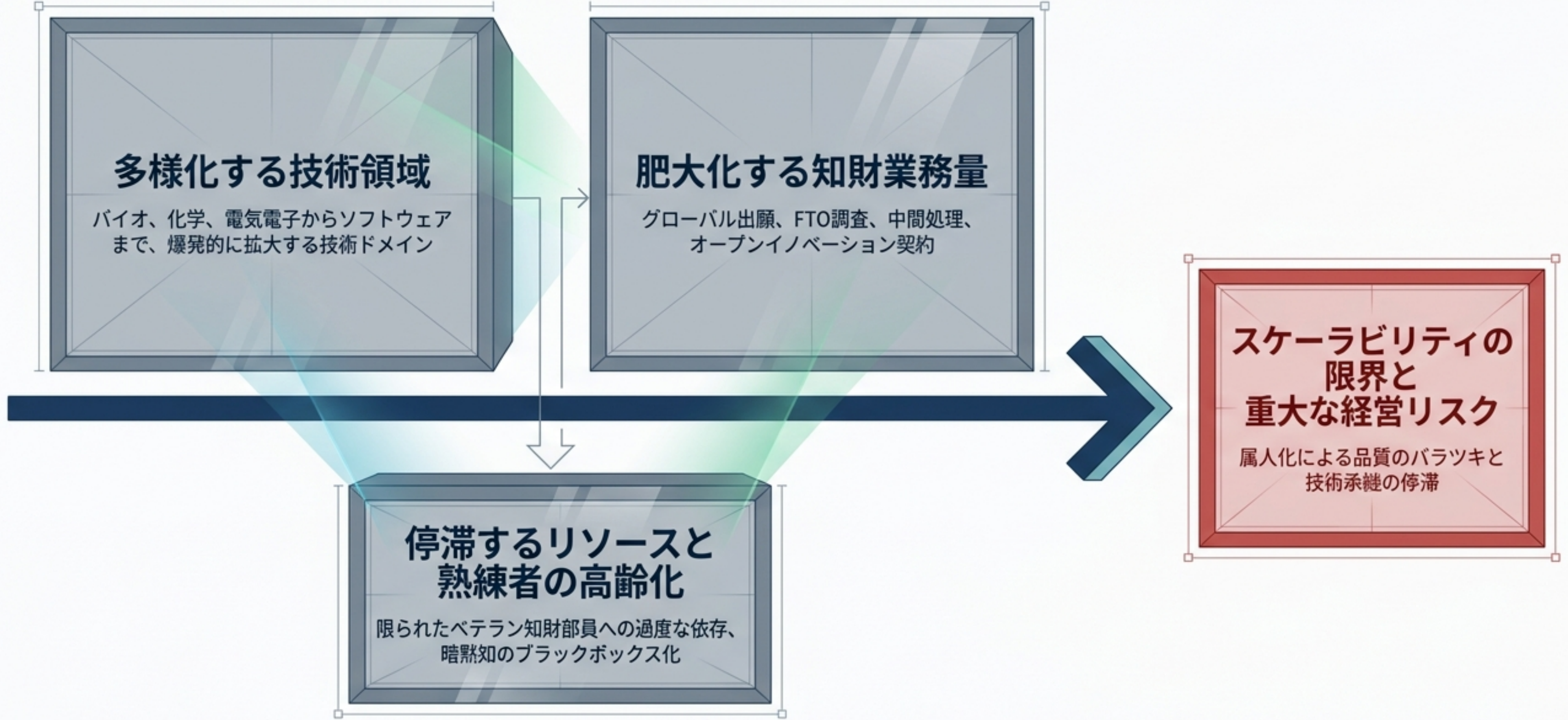


属人化からの脱却と知財DXの民主化

島津製作所発「Genzo AI」がもたらす、エンタープライズ知財管理のパラダイムシフト







島津製作所



国内最高峰の栄誉である
「平成27年度知財功労賞『特許庁長官表彰』」
「令和6年度 全国発明表彰
『発明奨励功労賞』」を受賞した
トップレベルの知財部隊が
独自開発・運用。

創業150年の世界的メーカーにおける
過酷な実務環境で鍛え上げられた
「生きたシステム」。



株式会社Genzo AI



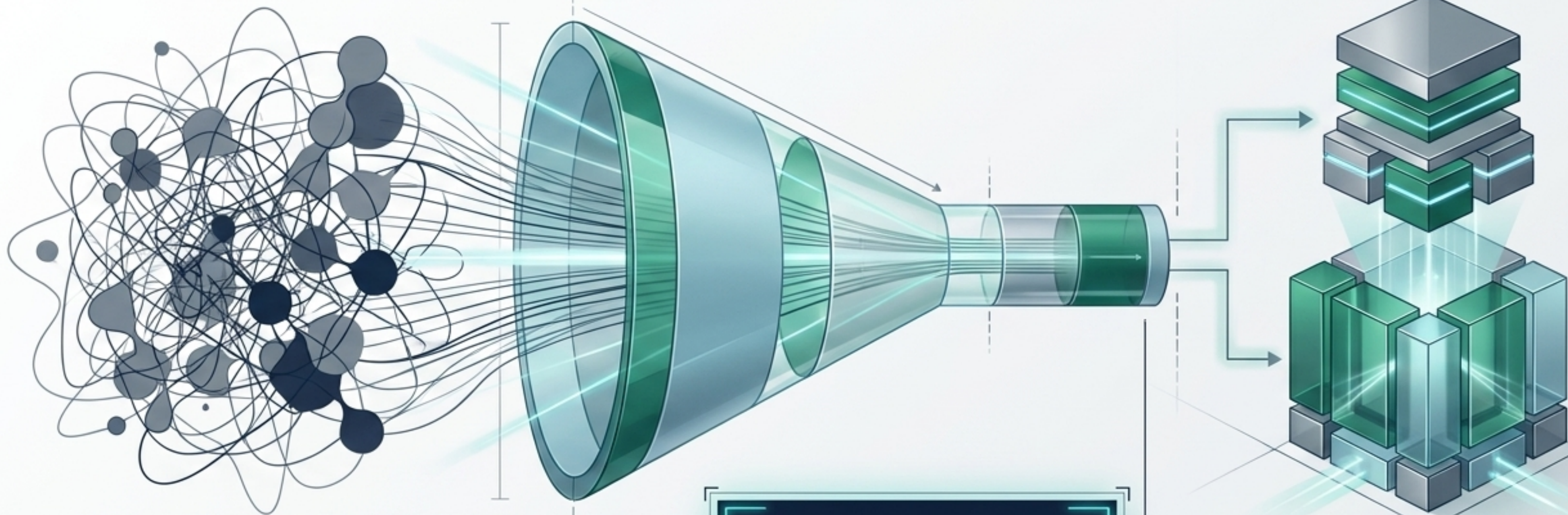
2026年4月1日設立
(合併会社: 島津製作所 90%、
株式会社IP Agent 10%、
資本金5,000万円)

2030年度までに売上高15億円を目指し、
知財業界全体のDXを牽引。
実務家と情報解析のプロフェッショナルが
融合した最強の布陣。

ベテランの暗黙知

Transformation (形式知化)

カスタムプロンプト



Input (暗黙知)

発明の本質を見抜くヒアリング力、審査官の意図を読み解く力、最適なクレーム構築の論理。

Tacit to Explicit

LLMの再学習（ファインチューニング）という高コストな手法ではなく、緻密に設計された推論ステップ（Chain of Thought）を用いたプロンプト化。

Output (組織のデジタル資産)

企業特有の技術用語、独自の言い回し、自社の知財戦略ガイドラインをシステムに定着。「使うほどに組織に馴染む」専用AIの構築。

**AIの役割 -
量とノイズ除去**

第一稿(ドラフト)の作成、膨大な先行文献の読み込み、一次スクリーニング。0から1を生み出す重労働をAIが完遂。



**人間の役割 -
質と戦略的判断**

論理のさらなる精緻化、事業戦略との整合性確認、最終的な法務リスクの判断。1を10にする高付加価値業務に専門家が集中。

**属人化の排除と、法務的厳密性(品質担保)を同時に
実現する現実的かつ強力なアーキテクチャ。**

	汎用生成AI	Genzo AI
プロンプト構築の負担	ユーザー個人が毎回複雑な指示を試行錯誤する必要あり。	ベテランの思考プロセスがシステムに組み込み済み(ゼロクリックで最適出力)。
専門知識の深さ	一般的な文章作成レベル。	特許特有のクレーム構造や法的言い回しを深く理解した専用設計。
ハルシネーション・リスク	もっともらしい嘘(架空の先行技術など)の混入リスクが高い。	HITL設計と厳格な一次情報ソースへの紐づけによりリスクを極小化。
出力品質の均一性	担当者のAIスキルに大きく依存(新たな属人化の発生)。	組織全体で高品質なベースラインを共有可能。

MODULE 06:

契約書レビュー

NDAや共同研究契約の不利な条項を指摘し、自社基準に沿った修正案を自動生成。

MODULE 01:

発明届出・明細書作成支援

断片的なメモから特許要件を満たす論理構成案を自動生成。R&Dの心理的ハードルを破壊。

MODULE 05:

FTO（侵害予防）調査

Patentfield社との連携により、製品仕様書から関連特許の検索・一次スクリーニングまでを全自動化。

MODULE 04:

先行文献調査

発明テキストを入力するだけで関連文献を自動抽出・比較判定。

MODULE 03:

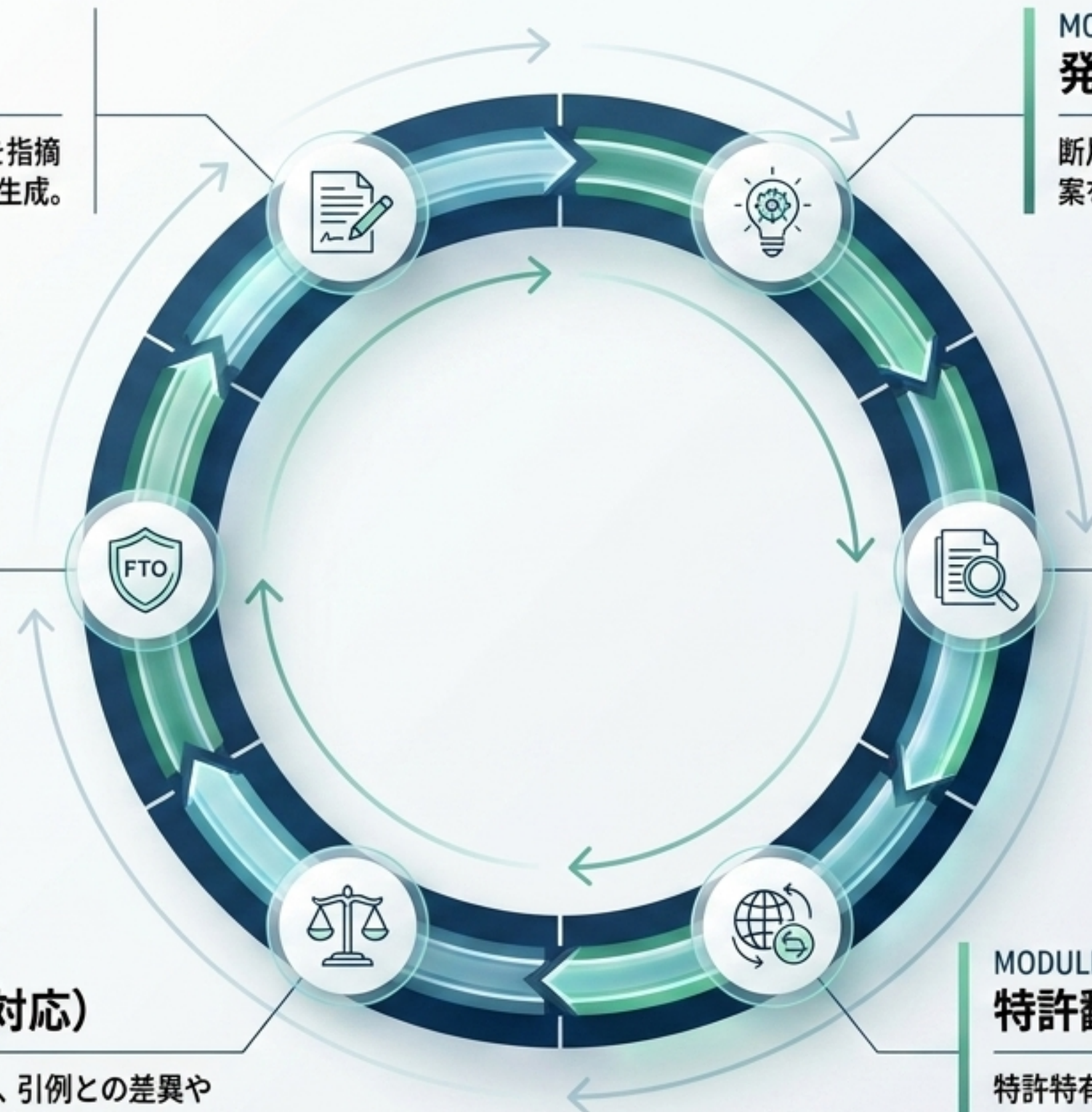
中間処理（OA対応）

審査官の論理を評価し、引例との差異や最適な「補正案」「反論構成」を提示。

MODULE 02:

特許翻訳

特許特有の文脈を理解した高品質な翻訳案を即座に生成。外注費を削減。



年間外部コスト削減額：

8,000万円

特許事務所、翻訳、調査等の外注費を劇的に抑制。
SaaS利用料最大1,500万円を差し引いても圧倒的な黒字化。

他社特許スクリーニング手作業

90% 削減

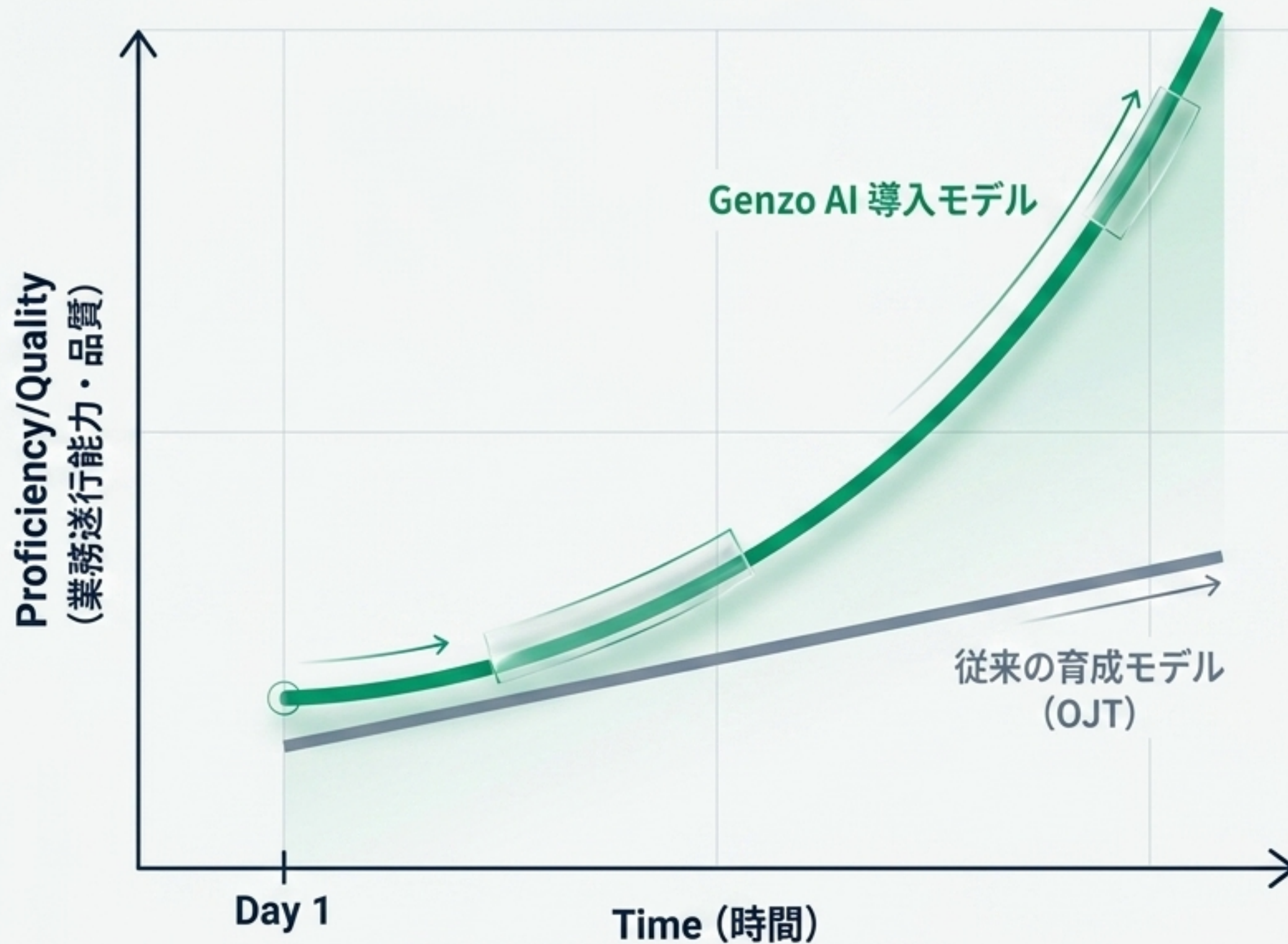
最も労働集約的なFTO調査・定期監視のノイズ排除をAIが完全代行。

発明届出・明細書作成工数

50% 削減

エンジニアが研究開発のコア業務にリソースを集中可能に。

Learning Curve



Insight

AIが「高度なアシスタント兼メンター」
として機能する新時代の人材育成。

Accelerated OJT & Day-1 Performance

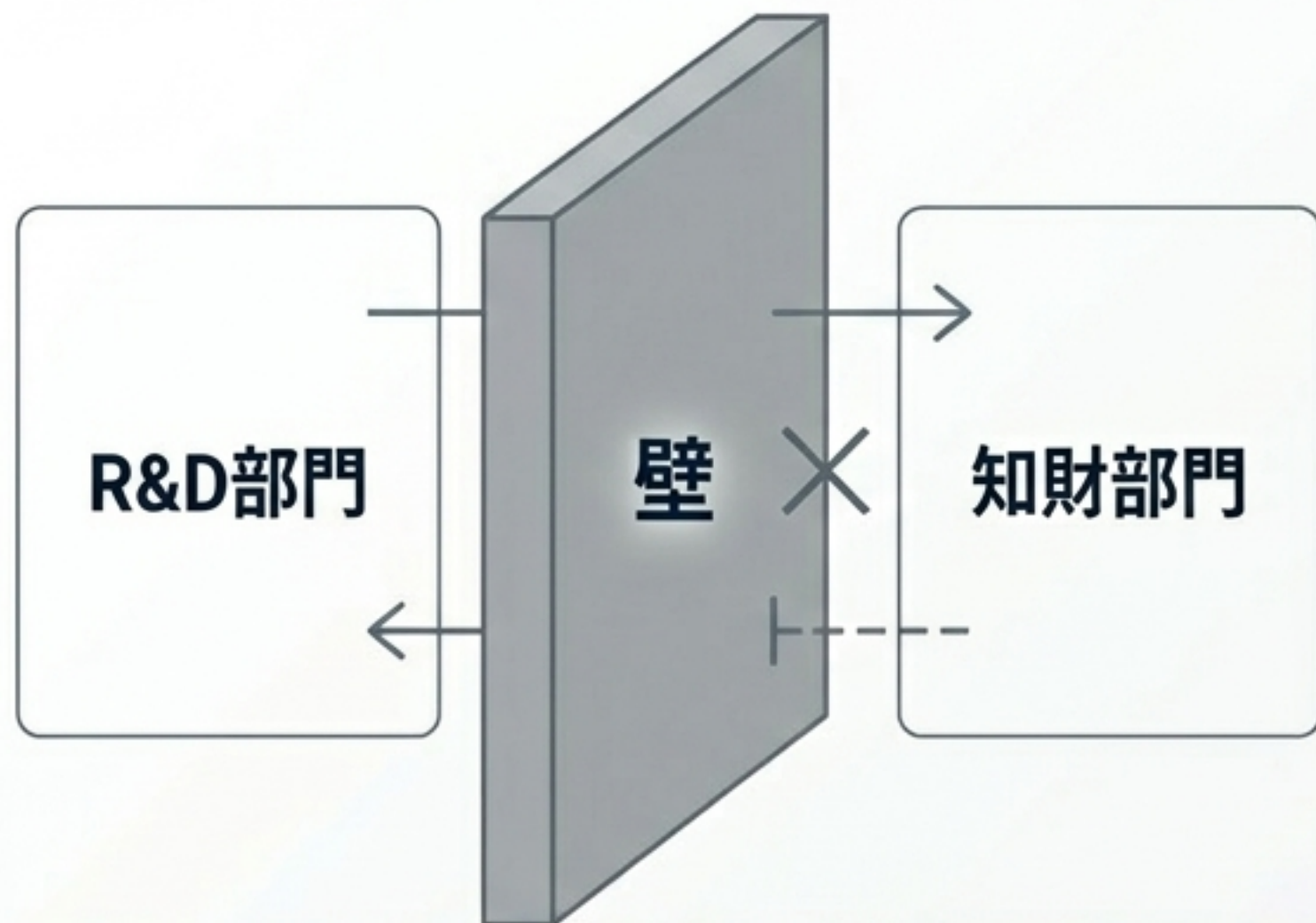
従来、数年から十年単位を要したOJTの
負荷が激減。経験の浅い若手でも、AIが提
示する高品質なドラフトを手本とし、配
属直後から一定水準の業務遂行が可能に。

Organizational Resilience

特定のベテランへの業務集中を防ぎ、
組織全体のアウトプット品質を均質化。

従来モデル：情報のサイロ化

従量課金/ID単位課金。高価なため知財部門のみがツールを独占。



Genzo AI：知財DXの民主化

ID数無制限（年間100万～1,500万円の定額制）。



The Synthesis: 知財DXの民主化

ID無制限の真の狙いは「全社的な知財啓蒙活動」の物理的実装にある。全エンジニアにアカウントを付与することで、MODULE 01（発明届出）とMODULE 04（先行調査）が日常的な研究活動の一部となる。特許出願の心理的ハードルが消滅し、企業全体が「巨大な発明創出エンジン」へと進化する。

Layer 1: AIモデル学習の完全禁止

OpenAI/Googleとのエンタープライズ契約により、入力データの二次利用やAI学習への転用を契約上完全に遮断。

Layer 3: 運営者アクセス不可 (ゼロトラスト)

Genzo AIのシステムエンジニアであっても、顧客の個別データや明細書の中身には技術的にアクセス不可能な設計。

顧客の機密知財
(Client IP)

Layer 2: データ保存の局所化 (国内AWS)

データは日本国内のAWSセキュア環境に保存。APIベンダー側にデータは永続残存せず、越境移転リスクを排除。

Layer 4: ユーザー主導の完全削除

送信データは最大30日で自動削除。さらに顧客のポリシーに応じ、即時かつ完全にデータを消去する機能を提供。

エンタープライズ導入に向けた今後の検証課題



客観的な外部認証

現時点ではISO 27001 (ISMS) 等の第三者セキュリティ認証の取得状況が未公表。大企業調達基準クリアに向けた今後のマイルストーン。



RAGアーキテクチャの透明化

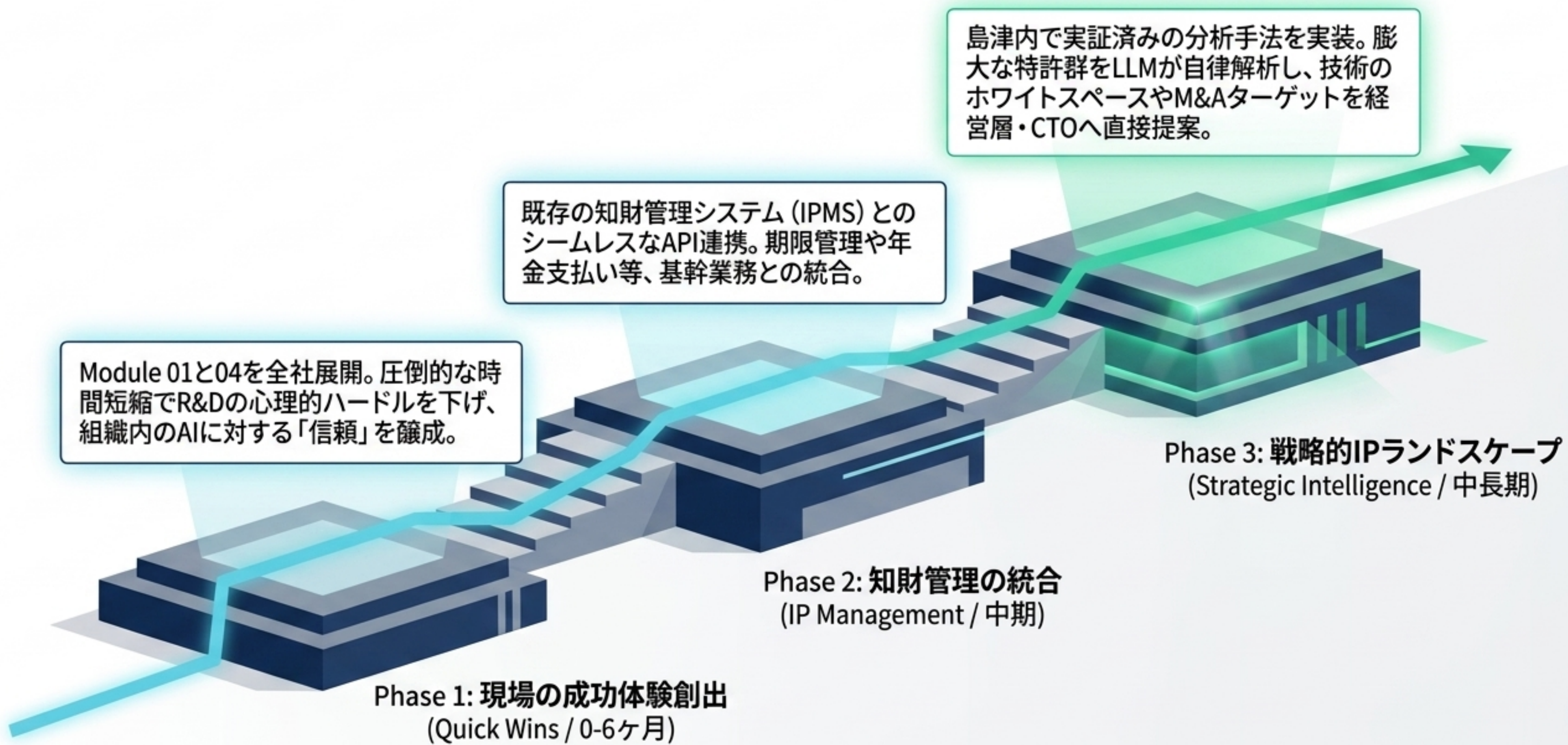
運営者アクセス不可仕様の技術的裏付け (KMS等による暗号鍵管理) や、カスタムプロンプト処理におけるRAGのセキュアな実装詳細の開示への期待。



ROIの他業種再現性

8,000万円・工数90%削減の実績は「島津製作所の環境下」での成果。異なる技術分野 (例: 製薬) や既存インフラを持つ他社環境での定量KPIの蓄積が今後の鍵。

AI活用ロードマップ (The IP Transformation Roadmap)



Before: 作業者としての知財部員

労働集約的な書類作成、
単調な先行技術の目視スクリーニング。

R&Dからの依頼を処理する
「受け身」のボトルネック。

コモディティ化した業務に
忙殺される日々。



After: 戦略家としての知財プロフェッショナル

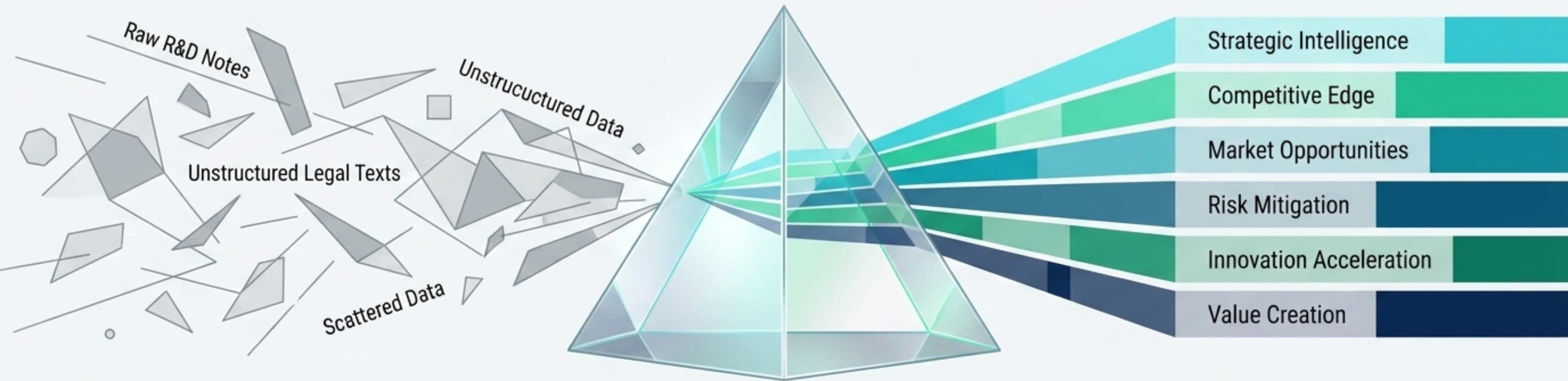
AIの出力を法的に精緻化する
「高付加価値な最終レビュー」。

複雑な訴訟リスクへの対応と、事業戦略
に踏み込んだ知財コンサルティング。

知的創造の最前線で経営に寄与する
「戦略的エディター」への進化。



知財を、一部の専門家の「暗黙知」から、 全社の「イノベーション基盤」へ。



CORE MESSAGE コアメッセージ

島津製作所が150年の歴史の中で導き出した解。
「ロジック化可能な知的労働はAIに委ね、人間はより創造的な
戦略業務に集中する」。

CALL TO ACTION / TAKEAWAY コール・トゥ・アクション / テイクアウェイ

Genzo AIは単なる業務効率化ツールではない。専門技術の属
人化から脱却し、企業全体で知財活動を民主化するための、最
も確実で強力なエンタープライズ・パラダイムシフトである。